

避難所に来て初めて笑う顔をみました

多賀城市体育館

4月14日、医師河崎寛孝（石川）・佐藤真一（高知）、看護師岩元ゆかり（鹿児島）・柄折規子（富山）・當山真吾（沖縄）・亀田伸子（愛知）、事務井村正人（千葉）・高島史全（静岡）・藤岡隆司（岡山）、薬剤師御立雅子（福岡）、リハビリ黒島安将（沖縄）・伊与田真也（大阪）・菅井麻美（東京）・砂田八重子（東京）さんは、多賀城市総合体育館を訪問しました。

それぞれ診察・血圧測定・フットケアチームに分けられました。診察では、毎日来て頂いて、血圧測定してもらって安心。フットケアでは、気持ち良さようにマッサージをうけるご高齢の母をみて娘さんが、「避難所に来てはじめて笑う顔を見た」と嬉しそうに話していました。

体育館には約200人の避難者がいますが、民医連から食事が高カロリーで野菜類が少ないことを指摘、避難所責任者の方も市からの支給物を配布しているだけで、炊き出しなどでおぎないたいとしています。これから避難所生活が長く続くことが考えられます。野菜などの物流も回復してきている状況で、管理栄養士なども参加して、これまでの食事の配布状況をみながら、食事面のアドバイスの必要性を感じました。（報告 宮城民医連 神馬 悟）



フットケアの様子



血圧測定



診察と受付



被災した子ども達のために使って！ スイスから1万ユーロが振り込まれる



Flims Laaxのスキー場で

クーニク・敦子さんご家族とお友だち（ご本人は右から4番目）



玉橋征子先生

4月12日、宮城民医連の口座に1万€（ユーロ・120万円）が振り込まれました。振込元は、<ATSUKO KONIG> クーニク・敦子さん、70歳、（スイス・チューリッヒ在住）です。

クーニクさんは、玉橋征子医師（坂総合病院）がスイスに留学していた時のお友だちです。今回の震災は、スイスでも連日のように報道され、震災が坂病院の近くと知り、玉橋先生の安否が不安で連絡したものの1週間連絡が取れなかったとのこと。安否確認が取れた後、義捐金として1万€を送ってこられ、今後も地元スイスでバザーなどを開催して、さらに義捐金を集めたいという事でした。また、長女の直子さんは医師で坂病院に来たことがあるとの事でした。

玉橋先生は「今回の震災で、被災された子どもたちのために使っていただければ」と話していました。（写真は古いものをお借りしました）

ガンバロウ宮城



スーパーやコンビニが開くようになってきて、店頭で東北への応援メッセージが貼られているのが目につくようになりました。坂病院近くのバイク屋さんでも「ガンバロウ宮城」のメッセージが。